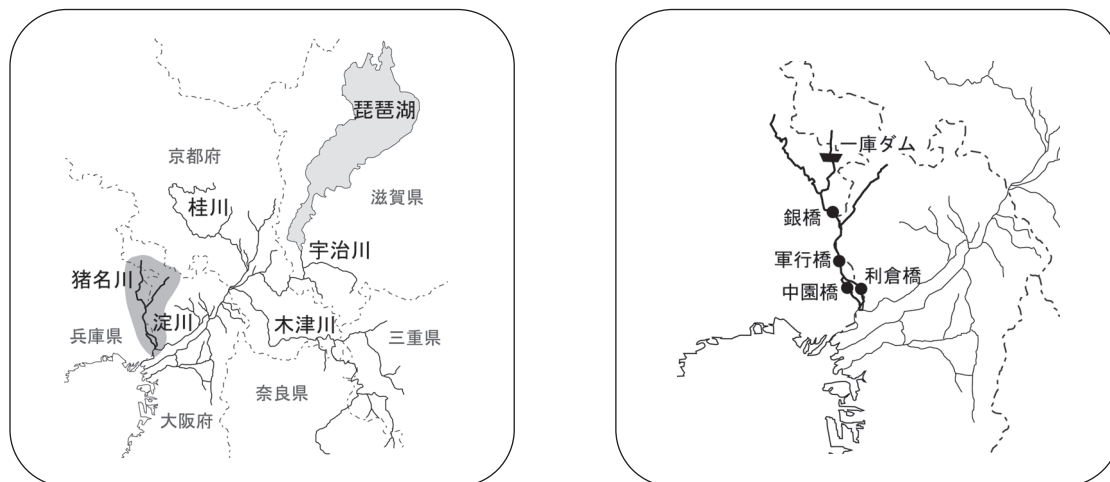


6. 猪名川

猪名川は兵庫県・大阪府を流れる河川で、神崎川に合流するまでを猪名川という。猪名川の支川である一庫大路次川の下流には、一庫ダム（昭和 58 年完成）がある。

猪名川・神崎川の水質は高度経済成長期に工業排水、生活排水等の流入により極めて悪化したが、兵庫地域公害防止計画に基づく下水道整備の推進等により近年はかなり改善されており、環境基準を達成している。



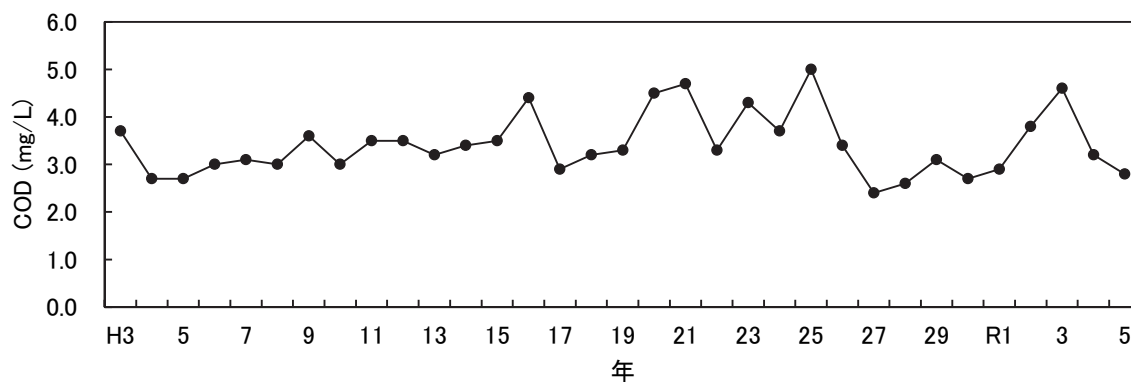
(1) 一庫ダム

COD (75%値) は、令和 5 年は 2.8mg/L であった（図 3-55）。

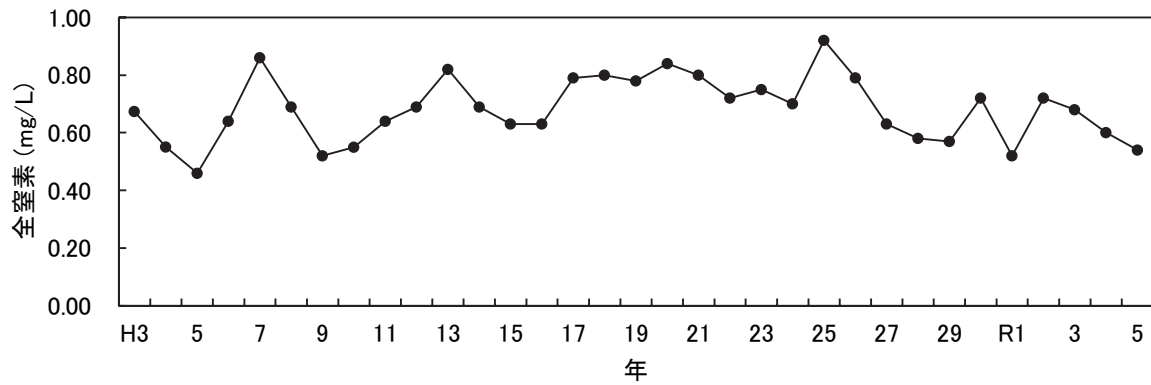
全窒素（年平均値）は増減を繰り返しながら、令和 5 年は 0.54mg/L であった（図 3-56）。

全りん（年平均値）は増減を繰り返しながら平成 22 年の 0.053mg/L から近年は減少傾向がみられ、令和 5 年は 0.030mg/L であった（図 3-57）。

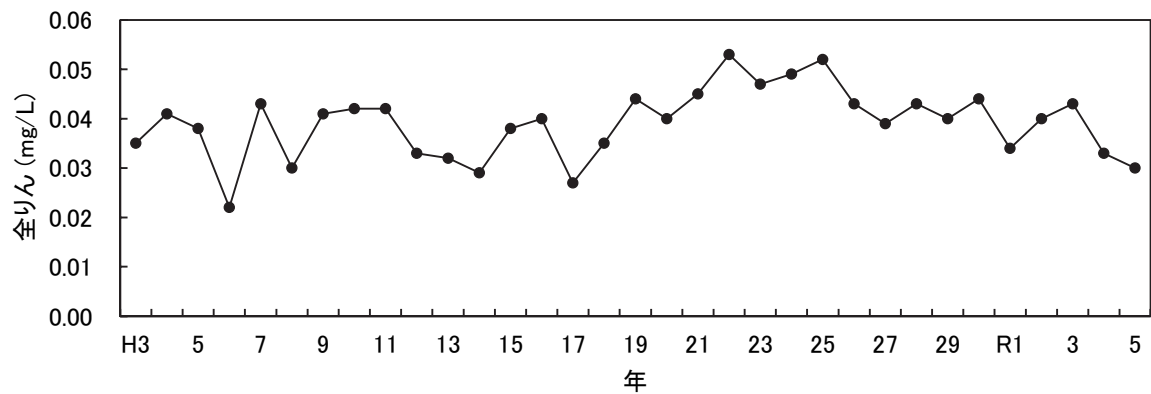
水温（年平均値）については、平成 10 年は 19.4℃と高かったが、それ以降は 19.4℃を下回っている。ただし、平成 30 年頃から上昇傾向がみられる（図 3-58）。



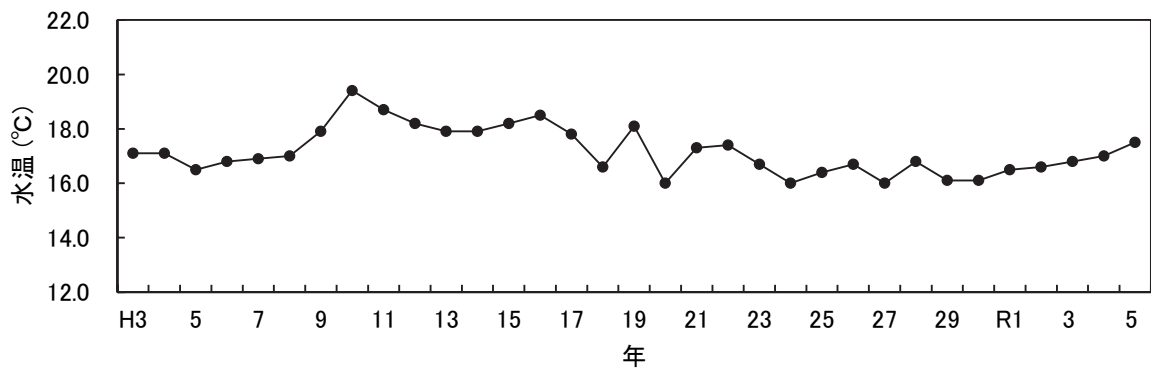
【図 3-55 一庫ダム(基準地点)の COD (75%値)の推移】



【図 3-56 一庫ダム(基準地点)の全窒素(年平均値)の推移】



【図 3-57 一庫ダム(基準地点)の全りん(年平均値)の推移】



【図 3-58 一庫ダム(基準地点)の水温(年平均値)の推移】

注) 表層 (0.5m) 平均値

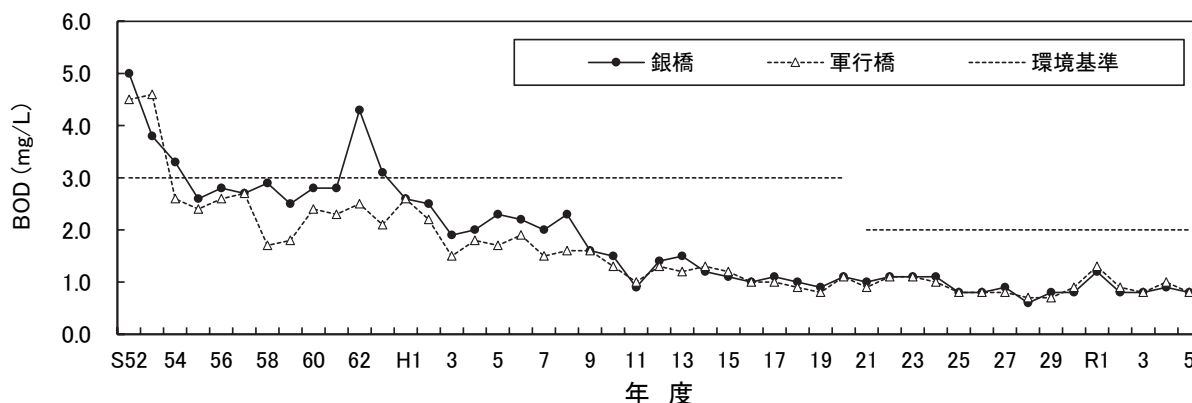
国土交通省「ダム諸量データベース」(～H23)
一庫ダム HP (H24～R5) より作成

(2) 猪名川上流

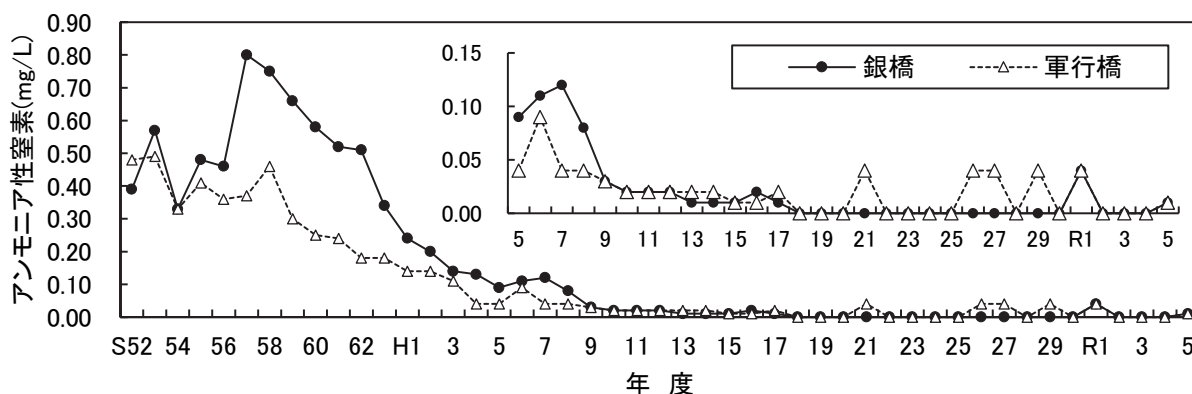
猪名川上流の水質は高度経済成長期に極めて悪化したが、昭和50年代になって急速に改善された。令和5年度のBOD（75%値）は銀橋、軍行橋ともに0.8mg/Lであり、両地点とも環境基準値を達成している（図3-59）。

アンモニア性窒素（年平均値）は昭和50年代に急速に改善され、銀橋では昭和57年度、軍行橋では昭和58年度以降低下している。令和5年度の値は、銀橋、軍行橋ともに令和3年度に続き、報告下限値（0.04mg/L）より低い値であった（図3-60）。

水温（年平均値）については昭和62年度から平成13年度にかけて変化が大きく高い値を示すことが多かったが、その後いったん低下し、それ以降は徐々に上昇傾向にある（図3-61）。

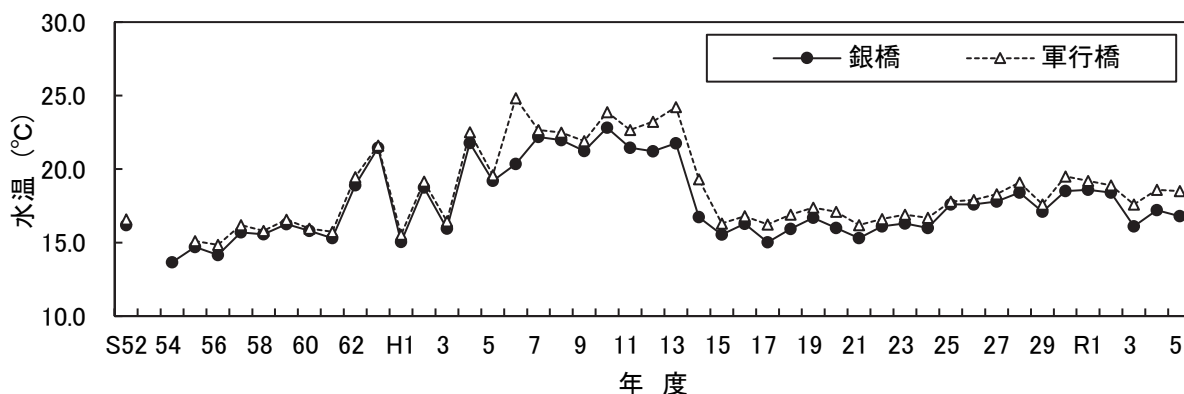


【図3-59 猪名川上流のBOD(75%値)の推移】



【図3-60 猪名川上流のアンモニア性窒素(年平均値)の推移】

注) 報告下限値（0.04mg/L）より低い値は便宜上最低値として図示



【図3-61 猪名川上流の水温(年平均値)の推移】

大阪府 HP「公共用水域の水質等調査結果」より作成（R4年度）

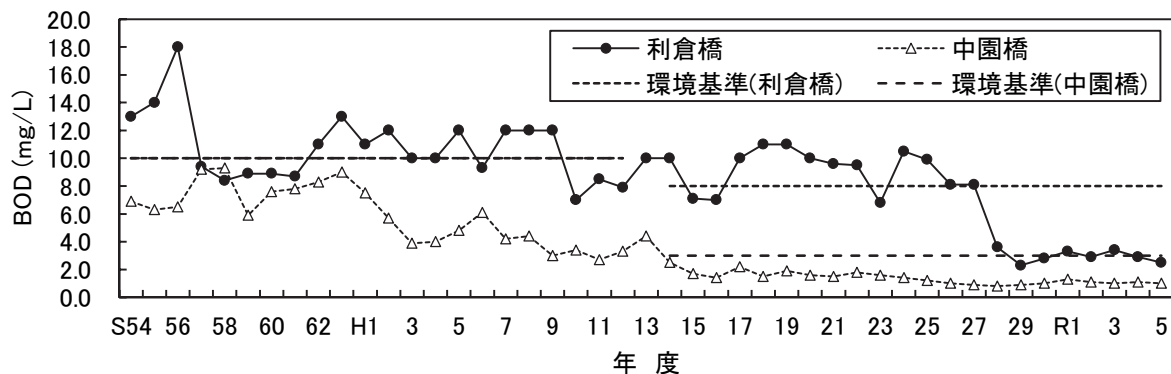
猪名川河川事務所「公共用水域の水質データ」月別データより作成（R5年度）

(3) 猪名川下流

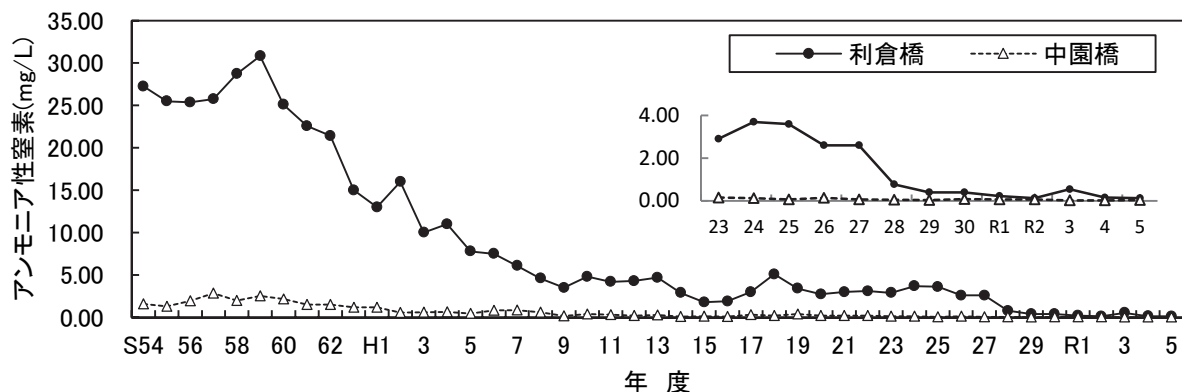
利倉橋での BOD (75%値) は昭和 50 年後半までは高い値を示していたが、その後増減を繰り返しながら、徐々に減少傾向にある。令和 5 年度は 2.5mg/L で環境基準を達成している。中園橋では、平成元年頃から改善傾向が見られ、令和 5 年度は 1.0mg/L とこちらも環境基準値を達成している (図 3-62)。

アンモニア性窒素 (年平均値) は、利倉橋では昭和 59 年度に 31mg/L と極めて高い値を示したが、その後急速に改善され、令和 5 年度は 0.13mg/L であった。中園橋では平成 2 年度以降ほぼ横ばいで推移しており、令和 5 年度は 0.04mg/L であった (図 3-63)。

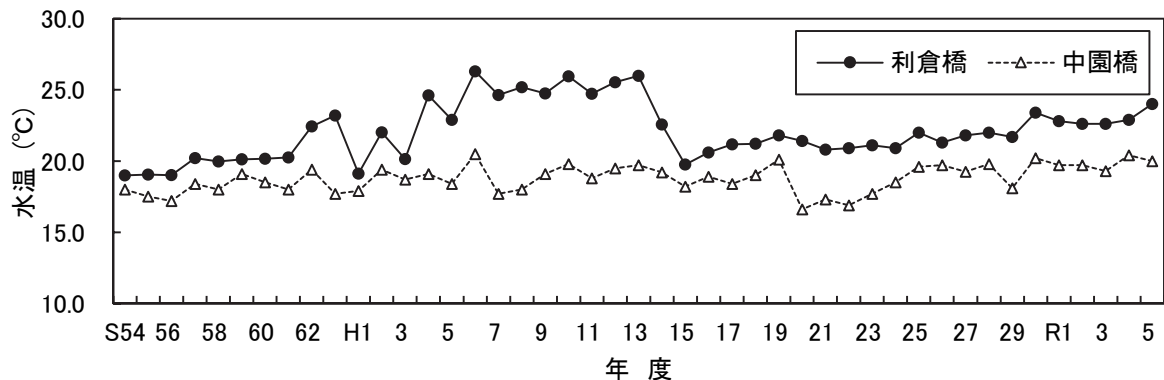
利倉橋の水温 (年平均値) については昭和 62 年度から平成 13 年度にかけて変化が大きく、高い値を示す年が多かったが、それ以降は低下し大きな変化は見られない (図 3-64)。



【図 3-62 猪名川下流の BOD (75%値) の推移】



【図 3-63 猪名川下流のアンモニア性窒素 (年平均値) の推移】



【図 3-64 猪名川下流の水温 (年平均値) の推移】

利倉橋：大阪府 HP「公共用水域の水質等調査結果」(R4 年度)

中園橋：兵庫県「環境白書」、兵庫県環境部水大気課データより作成 (R4 年度)

猪名川河川事務所「公共用水域の水質データ」月別データより作成 (R5 年度)